

新潟職能短大通信

外部との交流

暑かった夏も終わり食欲の秋を迎えました。十月は行楽にスポーツにと最高のシーズンです。町内会等の行事も多いことと思います。当校では推薦入試(十月十一日)や学園祭(十月二十五・二十六日)が予定されています。

八月の新発田まつりには、当校から約六十名の学生等が金魚台輪とともに参加しました。イルミネーションで飾りつけた金魚台輪の振り回しとシャボン玉のパフォーマンスで沿道の方たちに喜んでいただけましたものと思います。今年は新たに製作したミニ金魚台輪も加わり子供たちにも楽しんでもらいました。終了後に行われた打ち上げパーティーも食欲旺盛な学生たちで大いに盛り上がりました。夏の良い思い出になったことでしょう。一方、二年連続で雨にたたられたことから、当校の雨男は昨年度に着任した校長と部長に決定しました。

八月二十三日には生産技術科の学生チームが「かわ



参加メンバー



ミニ金魚台輪



いざ出陣

「さきロボット競技大会」に初めて出場しました。夏休みを返上して強力な歩行型バトルロボットを製作したはずですが、結果は残念ながら予選敗退。しかし、来年への手がかりはつかめたようです。



4本の手を持つバトルロボット

八月三十一日、制御技術科の学生が宮城県で行われた手作り電気自動車の大大会「ワールド・エコノムーブ・グランプリ」に出場しました。惜しくも入賞は逃しましたが、こうした大会への出場は授業の中では味わえない競争の原理と、納期の重要性を肌で教えてくれます。また、貴重な情報交換の場にもなります。

九月二十一日、新潟市で新潟県障害者技能競技大会が行われ当校からは校長が競技委員長として、また四人の教員が競技委員として参加しました。表彰式では当校生産技術科の松本講師

制作による金メダルが県知事賞等の副賞として六種目の入賞者に贈られました。朱鷺をデザインした直径七十ミリの金メダルは北京オリンピックにも負けないりっぱなものです。铸造ではなくマシンングセンターという精密な工作機械を使って真鍮を五時間もかけて削りだして金メッキを施しました。入賞者には喜んでいただけたいと思います。



金メダル

このほか、九月二十八日に新潟県民体育館で行われる「にいがた・技のにぎわいフェスタ」や十一月六、七日に三条市地場センターで行われる「ものづくり技術交流展出展(三条)」等には、製作したオリジナルロボットを中心に参展します。今後こうした外部との交流を持ちながら、ものづくり人材の育成を続けていきたいと思えます。

新潟職能短期大学校

学務課長 今井 誠